

六月二十日

紛議は土生、三庄、尾道等に如何なる影響を興たるか 二二二、 両工場資格者全部出勤 二二四

笹子工場長其他の訓示 其所感 二二四、 争議團本部の家宅搜索 二二五、 幹部尾道に護送する 二二五

栗屋御調郡長、向井尾道市長来場 二二五、 争議團幹部續々拘引する 二二五、

六月二十一日

司法権の発動益々擴大、峻嚴 二二六、 争議團の大恐慌 二二七、

争議團は國粹會栗村氏に一任す 二二七、 城山俱樂部の會合 二二七、

調停案 二二八、 工場案 二二九、 調停者串畑職長代表遂に工場案を解決を報ず 二二九、

六月二十二日

歡呼の声全島に滿つ 二二〇、 豫審判事の取調引續く 二二〇、

六月二十三日

職工全部入場の状況 二二〇、 仕事無し 二二一、 工場努力 二二一、

争議團解散と大團圓 二二一、 公正なる天下の裁断を仰ぐ 二二二、 二二五、 以上、

大阪鐵工所因島工場労働争議に對する工場の態度方針

當工場は大正三年四月廿九日多量本部の経営による三庄村元大阪鐵工所因島分工場、更らに大正八年六月三庄村元備後船渠株式会社を本社買収するに及ば合と株式会社大阪鐵工所因島工場と稱し以て其業務一切を繼承せしむるにして労働後問もなく其施設を見たり職工相互に共済奨励能率増進等の爲めに共済會を設置し評議委員會を設け従業員より多数委員を選出を見吾國よ於ける工場委員制度の先驅を爲し其他利益分配制度等ハ時間制を實施し解雇手當、判定發表等當に先んじて著々と其範を示せり。

回顧するに世界大戦は一面吾國産業の勃興となり引いたは其他等より、形勢聲音を及ぼし大正七年一月三庄村元三庄所となり大正十年六月三庄村元三庄所となり各々時期を布くに至り、以て町と工場と密接なる關係ありて知るべし。

戦後偶々経済界の不況を會し更らに米國ワシントンに於ける海軍軍備縮少會議の結果は直接吾が造船事業に打撃を與へ知斯く経済界悲境を折昨年九月の大震災は百億の富と十幾万の身重なる人命とを灰燼と歸して以て國家的に益々大打撃を被へ引かて五口か